［釈文］

地震節用難事尽

大道散人 校訂

抑難事の初りハ昔滑らか国の鯰王といへる者そこらぢうをぬらくらとはねまハりしときそのゆり跡どんちやんどたすたとして難事をなせりしとぞ小野が馬鹿村薮の中にあつて是を写しとり文字の数に加へたりしとかや

倦うわき
偄ハやうきで
偢ふさぎ
佟ハいんきで
儰ハまごつき
小野が馬鹿村の
御哥なり

鈍画㊞

字	よみ	説
凶災	なまづ	けうへんにわざハひ
骨折	はりをち	ほねへんニをる
骨接	なぐら	ほねへんニつぐ
平家	つゝがなし	たいらへんニいへ
人藝	こまる	にんべんにげい
土荷	どかた	つちへんニになふ
軒丸太	かうばり	のきへんニまるた
再震	ゆりかへし	ふたゝびへんニふるふ
尸積	なげこミ	しかばねつむ
蔵傾	あぶない	くらへんニかたむく
木手間	はんじやう	きへんにてま
小手塗	いそがしい	こてへんにぬる
仮宅	にぎわひ	かりへんニたく
臥道	のじゆく	ふしへんニミち
火鯰	どんちやん	ひへんニなまづ
人焼	こんがり	にんへんやける
車運	しびと	くるまへんはこぶ
役者	をあいだ	やくへんニしや
金持	めいわく	かねへんニもち
崩下	ほりだし	くづれへんニした
質止	ふじゆう	しちへんニとまる
金借	むざい	かねへんニかり
舟唐	やすミ	ふなへんニから
石要	かんじん	いしへんニかなめ